



ふれあいデー・常小展 保護者・地域の方との体験講座

12月3日(土)に、保護者や地域の方にご来校いただき、ふれあいデー・常小展を開催しました。ここ数年は、新型コロナウイルス感染症対策のため、親子での学区散策オリエンテーリングや常小オリンピック2021(親子運動会)など、これまでと形を変えて行ってきました。しかし、保護者や地域の方との絆をよりいっそう深めていくためには、地域の方を講師としてお迎えし実施してきた3年前の形に戻すことが必要不可欠だと考え、どうしたらできるか試行錯誤しながらリニューアルしたふれあいデー・常小展としました。



1年生は「折り紙」と「あやとり」、2年生は「風車作り」、3年生は「手品体験」と「ゴム鉄砲」の講座を体験しました。4年生から6年生は、「革細工」「ニチレクボールペタンク」「モルック」「沖縄エイサー」「ファミリーバトミントン」「万華鏡づくり」「一輪挿し」「お菓子作り」などの講座から選択し、自分や親子でやりたいことにチャレンジしていました。親子一緒になり夢中になって作品を作ったり、親子やチーム対抗でスポーツに汗を流したり、輪になって踊りながら太鼓の演奏をしたりするなど、はじける笑顔や真剣なまなざしが見られ、笑い声や歓声が学校だけでなく学区こどもの家からも響き渡って、心温まる行事となりました。また、子供たちにとって初めて挑戦したことばかりで、あっという間に時間が過ぎさり、「もっとやりたい」という声がたくさん聞かれました。

保護者、地域、教職員が一体となって子供たちの健やかな成長を図っていくこのような行事を、どうしたらできるのか考えながら、今後も「開かれた学校」づくりを推進していきたいと思えます。

